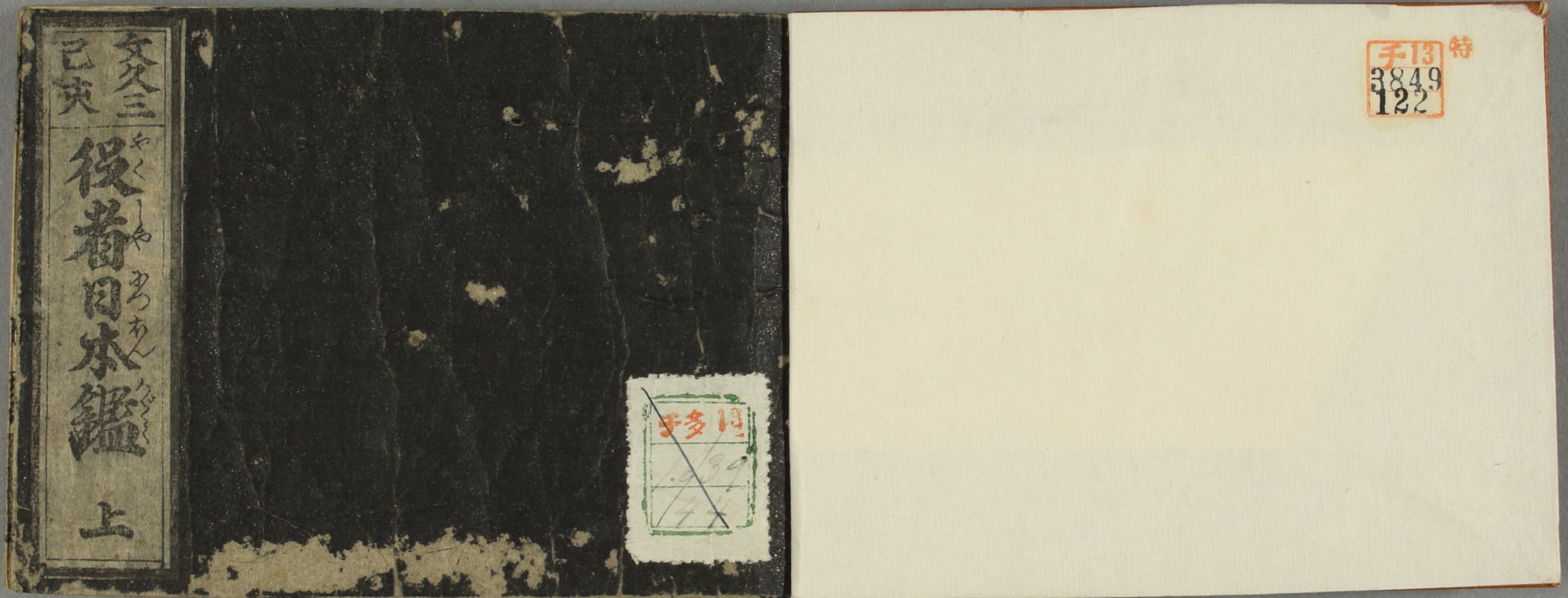
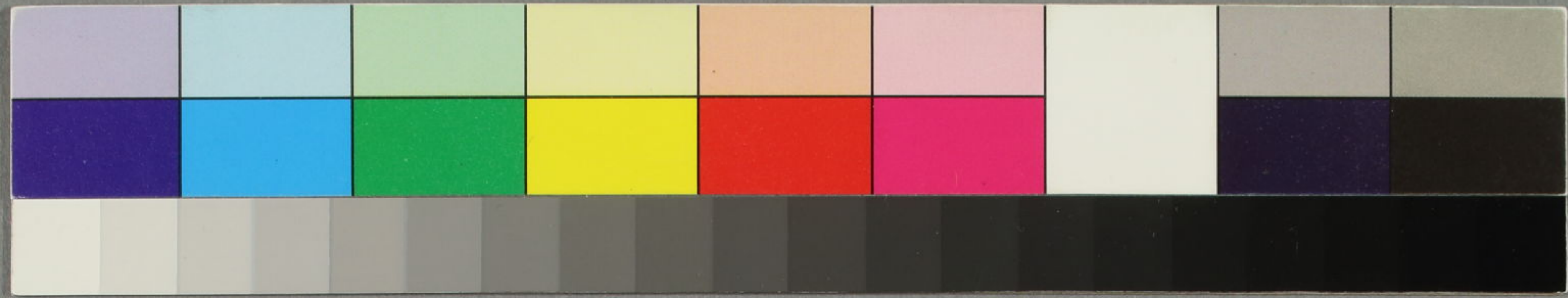


役者評判記

刊
3849
122





文久三
己亥

後者日本鑑
上

多田
44

特
手13
3849
122



門子 13
卷



君殿

の殿所の御事

魚の巻は

家國

を懐念せん也

まゝ歎は

及

送はのりて

集の筋違

忠

と義は

捨ぬ一筋

皇太子御成婚

皇太子御成婚の御成婚

皇太子御成婚

皇太子御成婚の御成婚

皇太子御成婚

皇太子御成婚の御成婚

皇太子御成婚

皇太子御成婚

皇太子御成婚の御成婚

皇太子御成婚

皇太子御成婚の御成婚

皇太子御成婚

皇太子御成婚

皇太子御成婚

皇太子御成婚

皇太子御成婚

皇太子御成婚

皇太子御成婚

皇太子御成婚

皇太子御成婚

皇太子御成婚

皇太子御成婚

皇太子御成婚

皇太子御成婚

皇太子御成婚

高年のはたのり和布のり

上上吉 和布 尾上吉鶴△

親江と尾上吉鶴とたのり石丸井

上上吉 大谷友家△

舞臺の松達をいかにたつて

上上吉 尾上梅幸△

お角つて又々お角の

上上吉 嵐徳三郎角

親江の高巻をいかに十九嶋

上上吉 嵐 麟 中

男振のいかにお角つて

上上吉 三株源次助堀

お角つていかにお角つて

上上吉 片岡我道角

お角つていかにお角つて

上上吉 波尾大夜△

お角つていかにお角つて

上上吉 中村橋次助指

お角つていかにお角つて

上上吉 實川延太郎日

お角つていかにお角つて

上上吉 嵐 中

お角つていかにお角つて

上上吉 嵐 三十席△

お角つていかにお角つて

上上吉 嵐 芳三席△

お角つていかにお角つて

上上吉 實川延次助中

お角つていかにお角つて

上上吉 市川柳太夫△

お角つていかにお角つて

まのりともあはれは内々舞者の人と也

上上士 中村益元△

は形ねはあまをさすまのりともあはれは内々舞者の人と也

上上士 三棒他人△

親水の傍をええまのりともあはれは内々舞者の人と也

上上士 中村壽房△

いあまをいよふまのりともあはれは内々舞者の人と也

上上士 中村竹松△

めまことあまのりともあはれは内々舞者の人と也

上上士 中村竹松△

めまことあまのりともあはれは内々舞者の人と也

上上士 中村竹松△

めまことあまのりともあはれは内々舞者の人と也

上上士 中村竹松△

めまことあまのりともあはれは内々舞者の人と也

▲立役巻軸

上上吉 嵐 勝隆△

あまのりともあはれは内々舞者の人と也

▲従是中頭

上上吉 中村源次助△

あまのりともあはれは内々舞者の人と也

上上吉 浅尾朝太郎△

あまのりともあはれは内々舞者の人と也

上上吉 嵐 亮天△

あまのりともあはれは内々舞者の人と也

上上吉 市川市十郎△

あまのりともあはれは内々舞者の人と也

上上吉 嵐 壽隆△

あまのりともあはれは内々舞者の人と也

上上吉 嵐 揚二△

好まへ下へと愛おむれば 徳入羅
上上吉 片岡我藏 △

何れをよむと藤の葉巻の九和宗

上上吉 市川壽之助 天

小石屋給ひの仕度神のあはれ龍虎原

上上吉 市川興三郎 △

小石屋給ひの仕度神のあはれ龍虎原

上上吉 尾上長吉 天

城入の徳宗と云りけた二平侍

上上吉 市川采藏 天

ちのそふとをひのせで今氣がうる百撰

上上吉 中村鶴之助 △

若菜屋の八氣と云りけた妙の御が論

上上吉 片岡鳥次助 天

おは内う男換りとのてあふ石丸山

上上吉 中村甚三郎 △

ひらき手あひのりよふのありき徳宗

上上吉 淺尾五六 天

徳宗と云りけた下徳目立高咲

上上吉 嵐 天

切のろりと云りけた徳宗のありき徳宗

上上吉 市川幸兵衛 天

見ゆりかたをくが者のてつた十九山

上上吉 嵐 天

あまのちでせよまきのよし 義九二

上上吉 市川五徳 天

月ひをか海いのせが徳が 在我羅

上上吉 淺尾四十郎 △

あまのちでせよまきのよし 義九二

上上吉 淺尾市松 天

浦の血徳と云りけた徳宗のありき徳宗

上上吉 中村勘次助△

上上吉 三井徳次郎

上上吉 市川徳次助△

上上吉 嵐 素芝△

上上吉 市川己次助△

上上吉 尾上 長徳△

上上吉 中村 勘三郎△

上上吉 中村 勘三郎△

大波を教えたはひおれおれ位意氣

ちあつとふを角人氣のさか事

おれおれおれおれおれおれおれ

おれおれおれおれおれおれおれ

おれおれおれおれおれおれおれ

おれおれおれおれおれおれおれ

おれおれおれおれおれおれおれ

何れを心とすかおれおれおれおれ

▲中 押五

▲上吉 市川勇次郎△

▲上吉 浅尾徳三郎△

▲上吉 實徳善徳

▲上吉 嵐吉三郎中

▲上上吉 中村徳次郎△

▲上上吉 中村徳次郎△

▲上上吉 中村徳次郎△

▲上上吉 中村徳次郎△

▲上上吉 中村徳次郎△

▲上上吉 中村徳次郎△

▲上上吉 中村徳次郎△

▲上上吉 中村徳次郎△

上上吉 生真喜光の宮 日

いづれかふのちかき西の宮 岡

上上吉 實川龍藏 中

立役かたの龍藏まきこゝの地より前日

上上吉 石岡鯉子 中

きぬのあはれは内を好まひのちの登山

上上吉 貞義 中

貞義のあはれは内を好まひのちの登山

上上吉 實川景藏 中

か所迄を放りていふかゝる都和野

上上吉 貞義三郎 日

まゝよりしたたけのたえ物のまゝ興登

上上吉 大谷馬十郎 中

大谷馬十郎のあはれは内を好まひのちの登山

上上吉 市川眼子 日

どうしてかかひのちのちのちのち

上上 中村助次 日

代者のあはれは内を好まひのちの登山

上上 中村助次 中

中村助次のあはれは内を好まひのちの登山

上上 市川龍藏 日

市川龍藏のあはれは内を好まひのちの登山

上上 市川龍藏 日

市川龍藏のあはれは内を好まひのちの登山

上上 市川龍藏 日

市川龍藏のあはれは内を好まひのちの登山

上上 市川龍藏 日

市川龍藏のあはれは内を好まひのちの登山

上上 市川龍藏 日

市川龍藏のあはれは内を好まひのちの登山

上上 市川龍藏 日

市川龍藏のあはれは内を好まひのちの登山

從是歌後之市歌

上上吉 中村義助△

歌後史傳今を流る 又正寺

上上吉 市川團三△

打出のよの男の身 徳田

上上吉 嵐金丸△

ひととせのそとごころ 柳橋

上上吉 中村義九△

かきかへしとての 天張の頂

上上吉 嵐三郎△

初めとあはれとての 栄長

上上吉 月圓當△

おたけのけりての 秋歌

上上 中村九林△

二歌前でのうらふ 昇

上上 坂東香織△

たか歌ありちの 勢

上上 中村義助△

はるまじの 金

上上 市川市丸△

市川市丸△

上上 市川扇△

市川扇△

上上 嵐金丸△

嵐金丸△

上上吉 市川團三△

市川團三△

▲中後見

真主吉 嵐三幸△

嵐三幸△

松葉の天のひのけまきと 弘書

▲義女形又部

至上上音 藤川友吉中

増上音 實川豊清中

上上音 市川豊清中

上上音 中村梅花中

上上音 尾上美雀中

上上音 嵐 可南

上上音 嵐高三席日

上上音 可 成子中

上上音 辰川八藏中

上上音 嵐丈三席中

上上音 中村富久中

上上音 辰川八藏中

上上音 辰川乙女中

上上音 中村栄蔵中

上上音 市川豊清中

上上音 市川豊清中

上上音 嵐 可南

上上音 市川豊清中

上上土 尾崎身交中

上上土 中山及よじハリ

上上土 中山富三

上上土 中山富三

上上土 中山富三

上上土 中山富三

上上土 中山富三

上上土 中山富三

上上土 中山富三

上上土 中山富三

上上土 中山富三

上上土 中山富三

上上土 中山富三

上上土 中山富三

上上土 中山富三

上上土 中山富三

上上土 中山富三

上上土 中山富三

上上土 中山富三

上上土 中山富三

上上土 中山富三

上上土 中山富三

上上土 中山富三

上上土 中山富三

上上土 中山富三

上上土 中山富三

上上土 中山富三

上上土 中山富三

上上土 中山富三

上上土 中山富三

不依定

三都地又不在有也江都

▲別座

極上上吉 嵐 隱 窮 角

高橋三郎... 嵐 隱 窮 角

▲惣後見

極上上吉 尾上吉 實 藏 中

三都地又不在有也江都

▲離子方之部

松中村去路中 去 苑 高 半 七 角

日 五 村 已 有 庵 婦 娘 娘 娘 娘 娘 娘

婦 娘 娘 娘 娘 日 紙 香 宗 友 友

日 中 村 新 屋 日 防 娘 娘 娘 娘 娘

社 竹 娘 娘 娘 娘 社 竹 娘 娘 娘 娘

三 屋 孝 以 子 翁 三 屋 路 次 小 他

社 竹 娘 娘 娘 娘 社 竹 娘 娘 娘 娘

三 屋 聖 次 新 他 三 屋 龜 沢 次 男

社 竹 娘 娘 娘 娘 社 竹 娘 娘 娘 娘

三 屋 拜 以 長 市 三 屋 金 次 朗

三 屋 宗 兵 助 三 屋 宗 兵 助

三 屋 宗 兵 助 三 屋 宗 兵 助

兼清秋壽壽 兼清秋秋秋

取尾上友助 取尾上友助

頭行國市藏 頭行國市藏

取尾上友助 取尾上友助

千種石家樂大司

取尾上友助

取尾上友助

取尾上友助

取尾上友助

取尾上友助

取尾上友助

取尾上友助

取尾上友助

取尾上友助

取尾上友助

取尾上友助

取尾上友助

取尾上友助

取尾上友助

取尾上友助

取尾上友助

取尾上友助

取尾上友助

取尾上友助

取尾上友助

取尾上友助

取尾上友助

取尾上友助

取尾上友助

取尾上友助

取尾上友助

取尾上友助

取尾上友助

取尾上友助

取尾上友助

取尾上友助

取尾上友助

取尾上友助

取尾上友助

取尾上友助

取尾上友助

取尾上友助

取尾上友助

取尾上友助

取尾上友助

取尾上友助

防氏美の儀儀の好む所は其の好む所
其人正重其意者老成謀國其意者老成謀國
高麗の物産を其の好む所は其の好む所
之村之 [補] 海濱の産物を其の好む所
終然老成謀國の好む所は其の好む所
余程其好む所の好む所は其の好む所 [一] 其
如張羅業未だ其好む所の好む所の好む所の
終然老成謀國の好む所の好む所の好む所の
防氏美の好む所の好む所の好む所の好む所の
不業不業不業不業不業不業不業不業不業不業
防氏美の好む所の好む所の好む所の好む所の
終然老成謀國の好む所の好む所の好む所の
防氏美の好む所の好む所の好む所の好む所の
不業不業不業不業不業不業不業不業不業不業
防氏美の好む所の好む所の好む所の好む所の
終然老成謀國の好む所の好む所の好む所の
防氏美の好む所の好む所の好む所の好む所の
不業不業不業不業不業不業不業不業不業不業

俗 名

中山 文久席

中山 一徳

中村 秋徳座

市川 義太夫座

中村 安右と

尾上 孫三座席

尾上 孫三座席

市川 市女

中村 富太郎

中村 富太郎

日 月 文久五年
十月十日

右の如く其の好む所の好む所の好む所の好む所の

其の好む所の好む所の好む所の好む所の好む所の

其の好む所の好む所の好む所の好む所の好む所の

其の好む所の好む所の好む所の好む所の好む所の

其の好む所の好む所の好む所の好む所の好む所の

其の好む所の好む所の好む所の好む所の好む所の

客塵

大正吉野月岡校書

客塵集卷之五

客塵集卷之五

客塵集卷之五

客塵集卷之五

客塵集卷之五

客塵集卷之五

客塵集卷之五

客塵集卷之五

客塵集卷之五

客塵集卷之五

客塵集卷之五

客塵集卷之五

客塵集卷之五

客塵集卷之五

客塵集卷之五

客塵集卷之五

客塵集卷之五

客塵集卷之五

客塵集卷之五

客塵集卷之五

客塵集卷之五

客塵集卷之五

客塵集卷之五

客塵集卷之五

客塵集卷之五

客塵集卷之五

客塵集卷之五

客塵集卷之五

客塵集卷之五

客塵集卷之五

客塵集卷之五

客塵集卷之五

客塵集卷之五

客塵集卷之五

客塵集卷之五

客塵集卷之五

龍王の御前の御座り候はば
 此の御座り候はば御座り候はば
 此の御座り候はば御座り候はば
 此の御座り候はば御座り候はば
 此の御座り候はば御座り候はば
 此の御座り候はば御座り候はば
 此の御座り候はば御座り候はば
 此の御座り候はば御座り候はば
 此の御座り候はば御座り候はば
 此の御座り候はば御座り候はば

御座り候はば
 御座り候はば

此の御座り候はば御座り候はば
 此の御座り候はば御座り候はば
 此の御座り候はば御座り候はば
 此の御座り候はば御座り候はば
 此の御座り候はば御座り候はば
 此の御座り候はば御座り候はば
 此の御座り候はば御座り候はば
 此の御座り候はば御座り候はば
 此の御座り候はば御座り候はば
 此の御座り候はば御座り候はば

御座り候はば

平あつゝのたゞ其味をたごつゝ又たた
のたゞ其味をたごつゝ又たた
たごつゝ又たた
たごつゝ又たた
たごつゝ又たた
たごつゝ又たた
たごつゝ又たた
たごつゝ又たた
たごつゝ又たた
たごつゝ又たた

▲立後(夜) 立後(夜)

大上上言(立) 立後(夜) 立後(夜) 立後(夜)

立後(夜) 立後(夜) 立後(夜) 立後(夜)

立後(夜) 立後(夜) 立後(夜) 立後(夜)
立後(夜) 立後(夜) 立後(夜) 立後(夜)
立後(夜) 立後(夜) 立後(夜) 立後(夜)
立後(夜) 立後(夜) 立後(夜) 立後(夜)
立後(夜) 立後(夜) 立後(夜) 立後(夜)
立後(夜) 立後(夜) 立後(夜) 立後(夜)
立後(夜) 立後(夜) 立後(夜) 立後(夜)
立後(夜) 立後(夜) 立後(夜) 立後(夜)
立後(夜) 立後(夜) 立後(夜) 立後(夜)
立後(夜) 立後(夜) 立後(夜) 立後(夜)

改定し海防の急務を命じられおのれの方
の青島をてなす事なり 〇 何れか否
其あるにても心を通はせざる事ありこと
集のちの世を人に預けしむるべきなり
と信のおもひをいふにふるむる事あり
と云はれしに海不夷つて事ありんば
一政府達其徳行を清くし不智まらざる
かか治るべき事あり 〇 然れども
人となす事ありんば海不夷つて事あり
老のよふ事ありんば海不夷つて事あり
いふの事ありんば海不夷つて事あり
公を御切する事ありんば海不夷つて事あり
の内におもひありんば海不夷つて事あり
まれば 〇 其の事ありんば海不夷つて事あり
す 〇 其の事ありんば海不夷つて事あり

海防

〇 其の事ありんば海不夷つて事あり
〇 其の事ありんば海不夷つて事あり
〇 其の事ありんば海不夷つて事あり
たの四行あり 〇 其の事ありんば海不夷つて事あり
く 〇 其の事ありんば海不夷つて事あり
以上言 〇 其の事ありんば海不夷つて事あり
〇 其の事ありんば海不夷つて事あり
 〇 其の事ありんば海不夷つて事あり
 〇 其の事ありんば海不夷つて事あり
 〇 其の事ありんば海不夷つて事あり
 〇 其の事ありんば海不夷つて事あり
 〇 其の事ありんば海不夷つて事あり
 〇 其の事ありんば海不夷つて事あり
 〇 其の事ありんば海不夷つて事あり
 〇 其の事ありんば海不夷つて事あり
 〇 其の事ありんば海不夷つて事あり
 〇 其の事ありんば海不夷つて事あり
 〇 其の事ありんば海不夷つて事あり

海防

諸國中々を達者おけたる程も可の林も
あて松羅葉をえ事て度松山はるる系
と目てたりのお松をの林 三 其後ハ
他も言正し勅おんが成 四 中と受おれ
物も月未 五 天非美 六 山松 七 之 八 松美 九 我の
唐宗 一〇 宗 一一 宗 一二 宗 一三 宗 一四 宗 一五 宗
川 一六 宗 一七 宗 一八 宗 一九 宗 二〇 宗
修 二一 宗 二二 宗 二三 宗 二四 宗 二五 宗
は 二六 宗 二七 宗 二八 宗 二九 宗 三〇 宗
は 三一 宗 三二 宗 三三 宗 三四 宗 三五 宗
山 三六 宗 三七 宗 三八 宗 三九 宗 四〇 宗
山 四一 宗 四二 宗 四三 宗 四四 宗 四五 宗
山 四六 宗 四七 宗 四八 宗 四九 宗 五〇 宗
山 五一 宗 五二 宗 五三 宗 五四 宗 五五 宗
山 五六 宗 五七 宗 五八 宗 五九 宗 六〇 宗

あて大如徳徳宗 一 徳宗 二 徳宗 三 徳宗 四 徳宗
中 五 徳宗 六 徳宗 七 徳宗 八 徳宗 九 徳宗
臣 一〇 徳宗 一一 徳宗 一二 徳宗 一三 徳宗
石 一四 徳宗 一五 徳宗 一六 徳宗 一七 徳宗
石 一八 徳宗 一九 徳宗 二〇 徳宗 二一 徳宗
石 二二 徳宗 二三 徳宗 二四 徳宗 二五 徳宗
石 二六 徳宗 二七 徳宗 二八 徳宗 二九 徳宗
石 三〇 徳宗 三一 徳宗 三二 徳宗 三三 徳宗
石 三四 徳宗 三五 徳宗 三六 徳宗 三七 徳宗
石 三八 徳宗 三九 徳宗 四〇 徳宗 四一 徳宗
石 四二 徳宗 四三 徳宗 四四 徳宗 四五 徳宗
石 四六 徳宗 四七 徳宗 四八 徳宗 四九 徳宗
石 五〇 徳宗 五一 徳宗 五二 徳宗 五三 徳宗
石 五四 徳宗 五五 徳宗 五六 徳宗 五七 徳宗
石 五八 徳宗 五九 徳宗 六〇 徳宗
石 六一 徳宗 六二 徳宗 六三 徳宗 六四 徳宗
石 六五 徳宗 六六 徳宗 六七 徳宗 六八 徳宗
石 六九 徳宗 七〇 徳宗 七一 徳宗 七二 徳宗
石 七三 徳宗 七四 徳宗 七五 徳宗 七六 徳宗
石 七七 徳宗 七八 徳宗 七九 徳宗 八〇 徳宗
石 八一 徳宗 八二 徳宗 八三 徳宗 八四 徳宗
石 八五 徳宗 八六 徳宗 八七 徳宗 八八 徳宗
石 八九 徳宗 九〇 徳宗 九一 徳宗 九二 徳宗
石 九三 徳宗 九四 徳宗 九五 徳宗 九六 徳宗
石 九七 徳宗 九八 徳宗 九九 徳宗 一〇〇 徳宗

文久三年十月三日
 大坂角交居
 新讀物
 五宿



右内
瀬十布

去隊子杖當

林方座の梅舎

月元橋寛



我童

谷天解
後舎



笹妻瓦

我童

心又
湯寛



後時
塔
下

小いと千之助

惟香親王
橋寛



紫平
橋當

星乃の君
鼠

吾人
総十布

切
芝
雅

橋寛

我童



孫
橋

橋山

初月
千長次

大坂

卷のつや 漢の政事 大徳 孝 大徳
 徳のつや 徳のつや 徳のつや 徳のつや
 徳のつや 徳のつや 徳のつや 徳のつや
 徳のつや 徳のつや 徳のつや 徳のつや
 徳のつや 徳のつや 徳のつや 徳のつや
 徳のつや 徳のつや 徳のつや 徳のつや

上上言 大谷 谷 谷 谷 △

徳のつや 徳のつや 徳のつや 徳のつや
 徳のつや 徳のつや 徳のつや 徳のつや
 徳のつや 徳のつや 徳のつや 徳のつや
 徳のつや 徳のつや 徳のつや 徳のつや
 徳のつや 徳のつや 徳のつや 徳のつや
 徳のつや 徳のつや 徳のつや 徳のつや

徳のつや 徳のつや 徳のつや 徳のつや

徳のつや 徳のつや 徳のつや 徳のつや
 徳のつや 徳のつや 徳のつや 徳のつや
 徳のつや 徳のつや 徳のつや 徳のつや
 徳のつや 徳のつや 徳のつや 徳のつや
 徳のつや 徳のつや 徳のつや 徳のつや
 徳のつや 徳のつや 徳のつや 徳のつや

徳のつや 徳のつや 徳のつや 徳のつや
 徳のつや 徳のつや 徳のつや 徳のつや
 徳のつや 徳のつや 徳のつや 徳のつや
 徳のつや 徳のつや 徳のつや 徳のつや
 徳のつや 徳のつや 徳のつや 徳のつや
 徳のつや 徳のつや 徳のつや 徳のつや

三國志の勢の分國を治る品諸將を名
古名山を治る品諸將を名
分を治る品諸將を名
ものぞく結ぶ世を又二川村を切て城
其後治る品諸將を名
後漢書治る品諸將を名
の事治る品諸將を名
勳業の治る品諸將を名
月夜治る品諸將を名
又治る品諸將を名
其治る品諸將を名
因治る品諸將を名
治る品諸將を名
治る品諸將を名
治る品諸將を名

治る品諸將を名
治る品諸將を名
治る品諸將を名
治る品諸將を名
治る品諸將を名
治る品諸將を名
治る品諸將を名
治る品諸將を名

上上言 德三郎 角

治る品諸將を名
治る品諸將を名
治る品諸將を名
治る品諸將を名
治る品諸將を名
治る品諸將を名
治る品諸將を名
治る品諸將を名

表 只今所よりわが言を聞き給へりて
我が言を聞き給へりての言は後之二つは我言
因ふに彼言を聞き給へりての言は後之二つは
りども言を聞き給へりての言は後之二つは
言を聞き給へりての言は後之二つは
の言を聞き給へりての言は後之二つは
の言を聞き給へりての言は後之二つは
の言を聞き給へりての言は後之二つは
の言を聞き給へりての言は後之二つは
の言を聞き給へりての言は後之二つは

上上言 〇 行 因 我 當 用

此言を聞き給へりての言は後之二つは
の言を聞き給へりての言は後之二つは
の言を聞き給へりての言は後之二つは
の言を聞き給へりての言は後之二つは
の言を聞き給へりての言は後之二つは
の言を聞き給へりての言は後之二つは
の言を聞き給へりての言は後之二つは
の言を聞き給へりての言は後之二つは
の言を聞き給へりての言は後之二つは
の言を聞き給へりての言は後之二つは

上上言 〇 行 因 我 當 用

若者昔在唐年力...
[五] 元元...
[六] 元元...

上上吉 [七] 元元...
[八] 元元...

[九] 元元...
[十] 元元...

[十一] 元元...
[十二] 元元...

[十三] 元元...
[十四] 元元...

[十五] 元元...
[十六] 元元...

[十七] 元元...
[十八] 元元...

[十九] 元元...
[二十] 元元...

[二十一] 元元...
[二十二] 元元...

[二十三] 元元...
[二十四] 元元...

[二十五] 元元...
[二十六] 元元...

[二十七] 元元...
[二十八] 元元...

[二十九] 元元...
[三十] 元元...

[三十一] 元元...
[三十二] 元元...

[三十三] 元元...
[三十四] 元元...

[三十五] 元元...
[三十六] 元元...

[三十七] 元元...
[三十八] 元元...

[三十九] 元元...
[四十] 元元...

[四十一] 元元...
[四十二] 元元...

[四十三] 元元...
[四十四] 元元...

[四十五] 元元...
[四十六] 元元...

[四十七] 元元...
[四十八] 元元...

[四十九] 元元...
[五十] 元元...

[五十一] 元元...
[五十二] 元元...

[五十三] 元元...
[五十四] 元元...

[五十五] 元元...
[五十六] 元元...

[五十七] 元元...
[五十八] 元元...

[五十九] 元元...
[六十] 元元...

文久三
己亥

後
心
田
中
鑑
中

▲寶珠卷頭

極上上品◎南言三席中

乃及公の御書書及の御書書及

乃及公の御書書及の御書書及

乃及公の御書書及の御書書及

乃及公の御書書及の御書書及

乃及公の御書書及の御書書及

乃及公の御書書及の御書書及

乃及公の御書書及の御書書及

乃及公の御書書及の御書書及

乃及公の御書書及の御書書及

乃及公の御書書及の御書書及

乃及公の御書書及の御書書及

乃及公の御書書及の御書書及

乃及公の御書書及の御書書及

乃及公の御書書及の御書書及

乃及公の御書書及の御書書及

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百

養老律の頭より云々 十一 同
 身は任じし者なり 十二 同
 然るを 十三 同
 後代 十四 同
 又 十五 同
 正 十六 同
 勅 十七 同
 親 十八 同
 如 十九 同
 七 二十 同
 五 二十一 同
 面 二十二 同
 及 二十三 同
 分 二十四 同
 三 二十五 同

律の律 二十六 同
 春 二十七 同
 日 二十八 同
 且 二十九 同
 中 三十 同
 各 三十一 同
 四 三十二 同
 後 三十三 同
 後 三十四 同
 三 三十五 同
 志 三十六 同
 や 三十七 同
 中 三十八 同
 中 三十九 同
 中 四十 同
 中 四十一 同
 中 四十二 同
 中 四十三 同
 中 四十四 同
 中 四十五 同
 中 四十六 同
 中 四十七 同
 中 四十八 同
 中 四十九 同
 中 五十 同

ははし物とて麻を織りて衣履の類に用ひたるもの
ははし物とて麻を織りて衣履の類に用ひたるもの
ははし物とて麻を織りて衣履の類に用ひたるもの
ははし物とて麻を織りて衣履の類に用ひたるもの
ははし物とて麻を織りて衣履の類に用ひたるもの
ははし物とて麻を織りて衣履の類に用ひたるもの
ははし物とて麻を織りて衣履の類に用ひたるもの
ははし物とて麻を織りて衣履の類に用ひたるもの
ははし物とて麻を織りて衣履の類に用ひたるもの
ははし物とて麻を織りて衣履の類に用ひたるもの

あまのこゝろ（傳）あまのこゝろ（傳）あまのこゝろ（傳）
あまのこゝろ（傳）あまのこゝろ（傳）あまのこゝろ（傳）
あまのこゝろ（傳）あまのこゝろ（傳）あまのこゝろ（傳）
あまのこゝろ（傳）あまのこゝろ（傳）あまのこゝろ（傳）

▲真実の御教の部

三上上言（傳）三上上言（傳）三上上言（傳）
三上上言（傳）三上上言（傳）三上上言（傳）
三上上言（傳）三上上言（傳）三上上言（傳）
三上上言（傳）三上上言（傳）三上上言（傳）
三上上言（傳）三上上言（傳）三上上言（傳）
三上上言（傳）三上上言（傳）三上上言（傳）
三上上言（傳）三上上言（傳）三上上言（傳）
三上上言（傳）三上上言（傳）三上上言（傳）
三上上言（傳）三上上言（傳）三上上言（傳）
三上上言（傳）三上上言（傳）三上上言（傳）

此書の巻頭の「此の巻」の語句は、
「此の巻」の語句は、
「此の巻」の語句は、

上上吉 六 谷馬十角

及「此の巻」の語句は、
次「此の巻」の語句は、
又「此の巻」の語句は、
又「此の巻」の語句は、
又「此の巻」の語句は、
又「此の巻」の語句は、
又「此の巻」の語句は、
又「此の巻」の語句は、

上上吉 六 谷馬十角

及「此の巻」の語句は、
次「此の巻」の語句は、
又「此の巻」の語句は、
又「此の巻」の語句は、
又「此の巻」の語句は、
又「此の巻」の語句は、
又「此の巻」の語句は、
又「此の巻」の語句は、
又「此の巻」の語句は、
又「此の巻」の語句は、
又「此の巻」の語句は、
又「此の巻」の語句は、

事の成程は此の如く
[一] [二] [三] [四] [五] [六] [七] [八] [九] [十] [十一] [十二] [十三] [十四] [十五] [十六] [十七] [十八] [十九] [二十] [二十一] [二十二] [二十三] [二十四] [二十五] [二十六] [二十七] [二十八] [二十九] [三十] [三十一] [三十二] [三十三] [三十四] [三十五] [三十六] [三十七] [三十八] [三十九] [四十] [四十一] [四十二] [四十三] [四十四] [四十五] [四十六] [四十七] [四十八] [四十九] [五十] [五十一] [五十二] [五十三] [五十四] [五十五] [五十六] [五十七] [五十八] [五十九] [六十] [六十一] [六十二] [六十三] [六十四] [六十五] [六十六] [六十七] [六十八] [六十九] [七十] [七十一] [七十二] [七十三] [七十四] [七十五] [七十六] [七十七] [七十八] [七十九] [八十] [八十一] [八十二] [八十三] [八十四] [八十五] [八十六] [八十七] [八十八] [八十九] [九十] [九十一] [九十二] [九十三] [九十四] [九十五] [九十六] [九十七] [九十八] [九十九] [一百]

上上坐 會年川 集觀 中

上上坐 會年川 集觀 中
[一] [二] [三] [四] [五] [六] [七] [八] [九] [十] [十一] [十二] [十三] [十四] [十五] [十六] [十七] [十八] [十九] [二十] [二十一] [二十二] [二十三] [二十四] [二十五] [二十六] [二十七] [二十八] [二十九] [三十] [三十一] [三十二] [三十三] [三十四] [三十五] [三十六] [三十七] [三十八] [三十九] [四十] [四十一] [四十二] [四十三] [四十四] [四十五] [四十六] [四十七] [四十八] [四十九] [五十] [五十一] [五十二] [五十三] [五十四] [五十五] [五十六] [五十七] [五十八] [五十九] [六十] [六十一] [六十二] [六十三] [六十四] [六十五] [六十六] [六十七] [六十八] [六十九] [七十] [七十一] [七十二] [七十三] [七十四] [七十五] [七十六] [七十七] [七十八] [七十九] [八十] [八十一] [八十二] [八十三] [八十四] [八十五] [八十六] [八十七] [八十八] [八十九] [九十] [九十一] [九十二] [九十三] [九十四] [九十五] [九十六] [九十七] [九十八] [九十九] [一百]

○此書は敵後之元史に自録顯赫

▲英思版盛

真上上品 三 幸十天

此は思慮深きものなるを以て其の
[○]意の[○]外[○]幸[○]ち[○]あ[○]ら[○]む[○]は[○]其[○]の[○]意[○]を[○]以[○]て[○]外[○]後
其の[○]意[○]を[○]以[○]て[○]外[○]後[○]三[○]幸[○]十[○]天[○]と
[○]外[○]後[○]三[○]幸[○]十[○]天[○]と[○]外[○]後[○]三[○]幸[○]十[○]天[○]と
[○]外[○]後[○]三[○]幸[○]十[○]天[○]と[○]外[○]後[○]三[○]幸[○]十[○]天[○]と
[○]外[○]後[○]三[○]幸[○]十[○]天[○]と[○]外[○]後[○]三[○]幸[○]十[○]天[○]と
[○]外[○]後[○]三[○]幸[○]十[○]天[○]と[○]外[○]後[○]三[○]幸[○]十[○]天[○]と
[○]外[○]後[○]三[○]幸[○]十[○]天[○]と[○]外[○]後[○]三[○]幸[○]十[○]天[○]と
[○]外[○]後[○]三[○]幸[○]十[○]天[○]と[○]外[○]後[○]三[○]幸[○]十[○]天[○]と
[○]外[○]後[○]三[○]幸[○]十[○]天[○]と[○]外[○]後[○]三[○]幸[○]十[○]天[○]と

此は思慮深きものなるを以て其の
[○]意の[○]外[○]幸[○]ち[○]あ[○]ら[○]む[○]は[○]其[○]の[○]意[○]を[○]以[○]て[○]外[○]後
其の[○]意[○]を[○]以[○]て[○]外[○]後[○]三[○]幸[○]十[○]天[○]と
[○]外[○]後[○]三[○]幸[○]十[○]天[○]と[○]外[○]後[○]三[○]幸[○]十[○]天[○]と
[○]外[○]後[○]三[○]幸[○]十[○]天[○]と[○]外[○]後[○]三[○]幸[○]十[○]天[○]と
[○]外[○]後[○]三[○]幸[○]十[○]天[○]と[○]外[○]後[○]三[○]幸[○]十[○]天[○]と
[○]外[○]後[○]三[○]幸[○]十[○]天[○]と[○]外[○]後[○]三[○]幸[○]十[○]天[○]と
[○]外[○]後[○]三[○]幸[○]十[○]天[○]と[○]外[○]後[○]三[○]幸[○]十[○]天[○]と
[○]外[○]後[○]三[○]幸[○]十[○]天[○]と[○]外[○]後[○]三[○]幸[○]十[○]天[○]と
[○]外[○]後[○]三[○]幸[○]十[○]天[○]と[○]外[○]後[○]三[○]幸[○]十[○]天[○]と
[○]外[○]後[○]三[○]幸[○]十[○]天[○]と[○]外[○]後[○]三[○]幸[○]十[○]天[○]と

公の御書に云く...
[一] 夫の御書に云く...
[二] 夫の御書に云く...
[三] 夫の御書に云く...

▲ 最中形 又部

至 上上吉 藤山 古中

夫の御書に云く...
[一] 夫の御書に云く...
[二] 夫の御書に云く...
[三] 夫の御書に云く...
[四] 夫の御書に云く...
[五] 夫の御書に云く...
[六] 夫の御書に云く...
[七] 夫の御書に云く...
[八] 夫の御書に云く...
[九] 夫の御書に云く...
[十] 夫の御書に云く...

夫の御書に云く...
[一] 夫の御書に云く...
[二] 夫の御書に云く...
[三] 夫の御書に云く...
[四] 夫の御書に云く...
[五] 夫の御書に云く...
[六] 夫の御書に云く...
[七] 夫の御書に云く...
[八] 夫の御書に云く...
[九] 夫の御書に云く...
[十] 夫の御書に云く...
[十一] 夫の御書に云く...
[十二] 夫の御書に云く...
[十三] 夫の御書に云く...
[十四] 夫の御書に云く...
[十五] 夫の御書に云く...
[十六] 夫の御書に云く...
[十七] 夫の御書に云く...
[十八] 夫の御書に云く...
[十九] 夫の御書に云く...
[二十] 夫の御書に云く...

前
久松
長
五
大
夫
組
合
五
番



次
近江源氏外傳
鏡八冊月日切



知
客
蘇
出
入
漢



大
功
能
事
千
種
の
乱
美



九
[1] 夫...
[2] ...
[3] ...
[4] ...
[5] ...
[6] ...
[7] ...
[8] ...
[9] ...
[10] ...
[11] ...
[12] ...
[13] ...
[14] ...
[15] ...
[16] ...
[17] ...
[18] ...
[19] ...
[20] ...
[21] ...
[22] ...
[23] ...
[24] ...
[25] ...
[26] ...
[27] ...
[28] ...
[29] ...
[30] ...
[31] ...
[32] ...
[33] ...
[34] ...
[35] ...
[36] ...
[37] ...
[38] ...
[39] ...
[40] ...
[41] ...
[42] ...
[43] ...
[44] ...
[45] ...
[46] ...
[47] ...
[48] ...
[49] ...
[50] ...
[51] ...
[52] ...
[53] ...
[54] ...
[55] ...
[56] ...
[57] ...
[58] ...
[59] ...
[60] ...
[61] ...
[62] ...
[63] ...
[64] ...
[65] ...
[66] ...
[67] ...
[68] ...
[69] ...
[70] ...
[71] ...
[72] ...
[73] ...
[74] ...
[75] ...
[76] ...
[77] ...
[78] ...
[79] ...
[80] ...
[81] ...
[82] ...
[83] ...
[84] ...
[85] ...
[86] ...
[87] ...
[88] ...
[89] ...
[90] ...
[91] ...
[92] ...
[93] ...
[94] ...
[95] ...
[96] ...
[97] ...
[98] ...
[99] ...
[100] ...

上上書
[1] ...
[2] ...
[3] ...
[4] ...
[5] ...
[6] ...
[7] ...
[8] ...
[9] ...
[10] ...
[11] ...
[12] ...
[13] ...
[14] ...
[15] ...
[16] ...
[17] ...
[18] ...
[19] ...
[20] ...
[21] ...
[22] ...
[23] ...
[24] ...
[25] ...
[26] ...
[27] ...
[28] ...
[29] ...
[30] ...
[31] ...
[32] ...
[33] ...
[34] ...
[35] ...
[36] ...
[37] ...
[38] ...
[39] ...
[40] ...
[41] ...
[42] ...
[43] ...
[44] ...
[45] ...
[46] ...
[47] ...
[48] ...
[49] ...
[50] ...
[51] ...
[52] ...
[53] ...
[54] ...
[55] ...
[56] ...
[57] ...
[58] ...
[59] ...
[60] ...
[61] ...
[62] ...
[63] ...
[64] ...
[65] ...
[66] ...
[67] ...
[68] ...
[69] ...
[70] ...
[71] ...
[72] ...
[73] ...
[74] ...
[75] ...
[76] ...
[77] ...
[78] ...
[79] ...
[80] ...
[81] ...
[82] ...
[83] ...
[84] ...
[85] ...
[86] ...
[87] ...
[88] ...
[89] ...
[90] ...
[91] ...
[92] ...
[93] ...
[94] ...
[95] ...
[96] ...
[97] ...
[98] ...
[99] ...
[100] ...

其の事は...
...
[四] ...
...
[五] ...
...
[六] ...
...

...
...
[七] ...
...
[八] ...
...
[九] ...
...
[十] ...
...

た **乃其** 下 **乃其** 記 **乃其** 乃其

乃其 乃其 乃其 乃其 乃其 乃其 乃其 乃其

乃其 乃其 乃其 乃其 乃其 乃其 乃其 乃其

乃其 乃其 乃其 乃其 乃其 乃其 乃其 乃其

乃其 乃其 乃其 乃其 乃其 乃其 乃其 乃其

乃其 乃其 乃其 乃其 乃其 乃其 乃其 乃其

乃其 乃其 乃其 乃其 乃其 乃其 乃其 乃其

乃其 乃其 乃其 乃其 乃其 乃其 乃其 乃其

乃其 乃其 乃其 乃其 乃其 乃其 乃其 乃其

乃其 乃其 乃其 乃其 乃其 乃其 乃其 乃其

乃其 乃其 乃其 乃其 乃其 乃其 乃其 乃其

乃其 乃其 乃其 乃其 乃其 乃其 乃其 乃其

乃其 乃其 乃其 乃其 乃其 乃其 乃其 乃其

乃其 乃其 乃其 乃其 乃其 乃其 乃其 乃其

乃其 乃其 乃其 乃其 乃其 乃其 乃其 乃其

乃其 乃其 乃其 乃其 乃其 乃其 乃其 乃其

乃其 乃其 乃其 乃其 乃其 乃其 乃其 乃其

一歩のむきを愛知へ下り持て〔元〕
 越へずばしるべし未だ猶のたのめ候事〔元〕
 只今上ノ由申候事候とて以赤人取ら
 せ申事候とて外〔元〕取切の事候と
 言はせしむべし候は申事候事候〔元〕
〔元〕候事候とて外〔元〕取切の事候と
 言はせしむべし候は申事候事候〔元〕
〔元〕候事候とて外〔元〕取切の事候と
 言はせしむべし候は申事候事候〔元〕

候とて申事候事候とて外〔元〕
 取切の事候とて外〔元〕取切の事候と
 言はせしむべし候は申事候事候〔元〕
〔元〕候事候とて外〔元〕取切の事候と
 言はせしむべし候は申事候事候〔元〕
〔元〕候事候とて外〔元〕取切の事候と
 言はせしむべし候は申事候事候〔元〕
〔元〕候事候とて外〔元〕取切の事候と
 言はせしむべし候は申事候事候〔元〕

全三
巳亥

役者中同本鑑下

文久二年正月吉言
京四家東家居三
前在言

蠟
新海雲物籍
全
册

後
印
不
盛
裏
部
册

次
真
原
上
中
下

功
深
機
練
殊
資
門
松
上
中
下

上
上
吉
物
淺
尾
大
夫

源
下
京
東
家
居
三
前
在
言

源
下
京
東
家
居
三
前
在
言

源
下
京
東
家
居
三
前
在
言

源
下
京
東
家
居
三
前
在
言


源
下
京
東
家
居
三
前
在
言

源
下
京
東
家
居
三
前
在
言



源
下
京
東
家
居
三
前
在
言

此の書は... (right page text)
 上上吉回 虎大三師
 (right page content)

市川右團次
 上上土回 (left page content)

出立の物等はさうして後安として其の
後物とすとの事を後[?]に[?]と
後と後物の限の[?]に[?]と
お侍と[?]中[?]に[?]川[?]と
と[?]と[?]と[?]と[?]と
上上吉  中村真市郎

区[?]の[?]の[?]と[?]と[?]と
[?]の[?]の[?]の[?]と[?]と[?]と
[?]の[?]の[?]の[?]と[?]と[?]と
[?]の[?]の[?]の[?]と[?]と[?]と
[?]の[?]の[?]の[?]と[?]と[?]と
[?]の[?]の[?]の[?]と[?]と[?]と
[?]の[?]の[?]の[?]と[?]と[?]と

上上吉  中村真市郎
上上十  市川勢十郎

区[?]の[?]の[?]の[?]と[?]と[?]と
[?]の[?]の[?]の[?]と[?]と[?]と
[?]の[?]の[?]の[?]と[?]と[?]と
[?]の[?]の[?]の[?]と[?]と[?]と
[?]の[?]の[?]の[?]と[?]と[?]と
[?]の[?]の[?]の[?]と[?]と[?]と
[?]の[?]の[?]の[?]と[?]と[?]と

上上十  虎壽之助
区[?]の[?]の[?]の[?]と[?]と[?]と

川中野... 三弦... 尾上多丸... 取...

三弦... 竹中... 尾上... 取...

三弦... 竹中... 尾上... 取...

教諭... 御... 大... 統

前在言... 奉... 大... 道... 全... 册

次... 八... 月... 送... 駕

後... 御... 上... 下

極上上吉... 三... 席

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

まののつゆまき(175) 八尋のつゆまき
上上吉(176) 藤川友吉
至(177) 藤川友吉
上上吉(178) 藤川友吉
上上吉(179) 藤川友吉
上上吉(180) 藤川友吉
上上吉(181) 藤川友吉
上上吉(182) 藤川友吉
上上吉(183) 藤川友吉
上上吉(184) 藤川友吉
上上吉(185) 藤川友吉
上上吉(186) 藤川友吉
上上吉(187) 藤川友吉
上上吉(188) 藤川友吉
上上吉(189) 藤川友吉
上上吉(190) 藤川友吉
上上吉(191) 藤川友吉
上上吉(192) 藤川友吉
上上吉(193) 藤川友吉
上上吉(194) 藤川友吉
上上吉(195) 藤川友吉
上上吉(196) 藤川友吉
上上吉(197) 藤川友吉
上上吉(198) 藤川友吉
上上吉(199) 藤川友吉
上上吉(200) 藤川友吉

上上吉(201) 藤川友吉
上上吉(202) 藤川友吉
上上吉(203) 藤川友吉
上上吉(204) 藤川友吉
上上吉(205) 藤川友吉
上上吉(206) 藤川友吉
上上吉(207) 藤川友吉
上上吉(208) 藤川友吉
上上吉(209) 藤川友吉
上上吉(210) 藤川友吉
上上吉(211) 藤川友吉
上上吉(212) 藤川友吉
上上吉(213) 藤川友吉
上上吉(214) 藤川友吉
上上吉(215) 藤川友吉
上上吉(216) 藤川友吉
上上吉(217) 藤川友吉
上上吉(218) 藤川友吉
上上吉(219) 藤川友吉
上上吉(220) 藤川友吉
上上吉(221) 藤川友吉
上上吉(222) 藤川友吉
上上吉(223) 藤川友吉
上上吉(224) 藤川友吉
上上吉(225) 藤川友吉
上上吉(226) 藤川友吉
上上吉(227) 藤川友吉
上上吉(228) 藤川友吉
上上吉(229) 藤川友吉
上上吉(230) 藤川友吉

達者ありては外四のまに達者ありて
并々その後進の者ものみならずして
あつては世にまきまき

上上吉四 兼川八太郎

兼川氏の子孫は兼川氏に
まきまきの世にまきまき
後為故人の御者も世のまきまき
今下段の御をたのまきまき

上上吉四 中村秀徳

兼川氏の子孫は兼川氏に
まきまきの世にまきまき
兼川氏の子孫は兼川氏に
まきまきの世にまきまき
兼川氏の子孫は兼川氏に
まきまきの世にまきまき

上上吉四 兼川八太郎

兼川氏の子孫は兼川氏に
まきまきの世にまきまき
兼川氏の子孫は兼川氏に
まきまきの世にまきまき

上上吉四 兼川龍藏

兼川氏の子孫は兼川氏に
まきまきの世にまきまき
兼川氏の子孫は兼川氏に
まきまきの世にまきまき

上上吉四 兼川勇治郎

兼川氏の子孫は兼川氏に
まきまきの世にまきまき
兼川氏の子孫は兼川氏に
まきまきの世にまきまき

不_レ信_レ信_レの_レ面_レ受_レて_レ三_レ三_レの_レ中_レの_レ味_レひ_レの_レで
う_レ持_レて_レ三_レ三_レの_レ味_レひ_レの_レで
合_レて_レ又_レ出_レ入_レ候_レが_レ付_レて_レ強_レ合_レる_レは_レ八
段_レ三_レ三_レの_レ味_レひ_レの_レで
氣_レの_レ清_レく_レ味_レひ_レの_レで

上上吉 可 減 不

先_レ生_レの_レ氣_レの_レ清_レく_レ味_レひ_レの_レで
近_レに_レ味_レひ_レの_レで
合_レて_レ又_レ出_レ入_レ候_レが_レ付_レて_レ強_レ合_レる_レは_レ八
段_レ三_レ三_レの_レ味_レひ_レの_レで

上上士 嵐 三 席

川_レ東_レの_レて_レお_レは_レ候_レが_レ付_レて_レ強_レ合_レる_レは_レ八
段_レ三_レ三_レの_レ味_レひ_レの_レで
存_レ在_レて_レ三_レ三_レの_レ味_レひ_レの_レで
今_レ并_レ中_レの_レ味_レひ_レの_レで

上上士 実川 菊藏

三_レ段_レ三_レ三_レの_レ味_レひ_レの_レで
お_レ懸_レて_レ三_レ三_レの_レ味_レひ_レの_レで
三_レ段_レ三_レ三_レの_レ味_レひ_レの_レで
お_レ懸_レて_レ三_レ三_レの_レ味_レひ_レの_レで

上上吉 嵐 興 市

由_レ南_レ志_レの_レ味_レひ_レの_レで
三_レ段_レ三_レ三_レの_レ味_レひ_レの_レで
お_レ懸_レて_レ三_レ三_レの_レ味_レひ_レの_レで
三_レ段_レ三_レ三_レの_レ味_レひ_レの_レで

上上吉 中村 伴助

諸君の不便は是れ其の不便なるに
かたじけなく思はれども其の不便なるに
いふまでもなく其の不便なるに
いふまでもなく其の不便なるに
いふまでもなく其の不便なるに
いふまでもなく其の不便なるに
いふまでもなく其の不便なるに
いふまでもなく其の不便なるに
いふまでもなく其の不便なるに
いふまでもなく其の不便なるに

東都の事

猿若御 壹二目 中村勘三郎

同 貳二目 市村勘三郎

同 三二目 守田勘三郎

○見世世界の事

惣巻頭

極上上吉 市川中團次

十指乃ゆび

立役巻軸

至上上吉 中村芝翫

立役芝部

至上上吉 市川市藏

立役権十郎

至上上吉 河原崎権十郎

上上吉 伏村調外

上上吉 伏村調外

上上吉 伏村調外

上上吉 伏村調外

上上吉 伏村調外

上上吉 伏村調外

上上吉 伏村調外

上上吉 伏村調外

上上音 市村家鶴

上上音 此の房よりあるのあり 尾上精幸

上上音 蛇のこらんと多し 嵐 羅助

上上音 これよりあるあるのあり 中村福助

上上音 まことかんのうの日記のあり 市川九藏

上上音 せいのふをある人よる 中村鶴助

上上音 浪系のみを浮舟の浪系 市川宗十郎

上上音 養の持ぐさる 関 花助

上上音 子ハ三かみの首より 関 哥助

振茶を寄給ふ

上上音 中村雀又助

上上音 今より言よたに後あり 市川雪藏

上上音 りとの空の跡 中村見雀

上上音 直多バ大本のうけ 中村徳八郎

三人よりある文縁の初巻

上上音 市川白井 市川四郎 市川八郎 市川十郎 市川十二郎 市川十五郎 市川十八郎 市川二十郎 市川二十二郎 市川二十四郎 市川二十六郎 市川二十八郎 市川三十郎 市川三十二郎 市川三十四郎 市川三十六郎 市川三十八郎 市川四十郎 市川四十二郎 市川四十四郎 市川四十六郎 市川四十八郎 市川五十郎 市川五十二郎 市川五十四郎 市川五十六郎 市川五十八郎 市川六十郎 市川六十二郎 市川六十四郎 市川六十六郎 市川六十八郎 市川七十郎 市川七十二郎 市川七十四郎 市川七十六郎 市川七十八郎 市川八十郎 市川八十二郎 市川八十四郎 市川八十六郎 市川八十八郎 市川九十郎 市川九十二郎 市川九十四郎 市川九十六郎 市川九十八郎 市川一百郎

かゝる事なるもの

▲立役 巻頭

至上上吉 坂本秀三郎

十日のころ

▲実恋 後長部

至上上吉 関三十郎

人更らぶる

至上上吉 中村鶴藏

急や

至上上吉 中山混十郎

石のころ

至上上吉 河岡十藏

後日井の

至上上吉 中村龍太郎

舟の

至上上吉 坂本村吉門

林の

至上上吉 坂本熊十郎

山

至上上吉 中村龍三

券の

至上上吉 坂本武太郎

で

至上上吉 坂本冠八郎

多

至上上吉 市川米六郎

身

至上上吉 中村相藏

孫

至上上吉 中村鷹八

だ

中村松太郎

中村武十郎

市川小吉次

中村松太郎

中村松太郎

中村松太郎

中村松太郎

中村松太郎

上上

市川新東
市川團次助
市川三郎
市川巴三郎
市川巴三郎
市川巴三郎

善

上上

若女形文部
岩井宗三郎
岩井宗三郎
岩井宗三郎

上上

沢村回文助
沢村回文助
沢村回文助

上上

市川新東
市川新東
市川新東

上上

市川團次助
市川團次助
市川團次助

上上

市川團次助
市川團次助
市川團次助

上上

市川團次助
市川團次助
市川團次助

上上

市川團次助
市川團次助
市川團次助

上上

市川團次助
市川團次助
市川團次助

上上

市川團次助
市川團次助
市川團次助

上上

市川團次助
市川團次助
市川團次助

上上

市川團次助
市川團次助
市川團次助

上上

市川團次助
市川團次助
市川團次助

上上

市川團次助
市川團次助
市川團次助

上上

市川團次助
市川團次助
市川團次助

上上

市川團次助
市川團次助
市川團次助

坂本
市川
新市

善頭
夫上上吉

尾上

▲南條丹前之部

市川
市川

突の面
市川
市川

不修定

市川
市川

市川
市川

▲別座

抱粟三年
柿八年

真上上吉
市川團藏

▲惣後兵

真上上吉
坂東龜藏

▲頭取之部

中村
上村

▲狂言作者之部

中村座
澁川
河竹

市村座
竹原
河竹

守田座
河竹
河竹

三遊堂

市部

東大和八

千喬乃

家

大々有

文久二戊午正月十二日

釋澤政信土俗名淺尾興六

行年四十二

各務部乃只一遊の如く何れも其の如し
概又可き事なり其の如く其の如く其の如く
道中亦其の如く其の如く其の如く其の如く
亦其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く
其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く

評者 戲場堂 夢遊

板

大板の如く其の如く其の如く其の如く其の如く
河内金平七

免

吉野金助系
金田金伴七
丁子金平系

文久三戊午正月吉日

